

中 学 校

平成 2 5 年度

# 教育研究員研究報告書

外 国 語

東京都教育委員会

## 目 次

I	主題設定の理由	1
II	研究の視点	2
III	研究仮説	2
IV	研究の方法	2
V	研究構想図	3
VI	研究の内容	
1	CAN-DO リストのねらい	4
2	発信力を高める活動例のねらい	4
3	検証授業	13
VII	研究の成果と今後の課題	23

## 研究主題 「発信力を高めるための4技能の総合的な指導の工夫」

### I 主題設定の理由

「中学校学習指導要領解説外国語編」では、外国語科改訂の基本方針として、「自らの考えなどを相手に伝えるための『発信力』やコミュニケーションの中で基本的な語彙や文構造を活用する力、内容的にまとまりのある一貫した文章を書く力などの育成を重視する観点から、『聞くこと』や『読むこと』を通じて得た知識などについて、自らの体験や考えなどと結び付けながら活用し、『話すこと』や『書くこと』を通じて発信することが可能になるよう、4技能を総合的に育成する指導を充実する。」（文部科学省 平成20年9月）ことが示されている。

また、「国際共通語としての英語力向上のための5つの提言と具体的施策」（外国語能力の向上に関する検討会 平成23年6月）には、「グローバル社会で求められる外国語能力とは、異なる国や文化の人々と外国語をツールとして円滑にコミュニケーションを図ることができる能力と言える。例えば、異なる国や文化の人々と臆せずに積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度や、相手の文化的・社会的背景を踏まえた上で、相手の意図や考えを的確に理解し、自らの考えに理由や根拠を付け加えて、論理的に説明したり、議論の中で反論したり相手を説得できる能力などが挙げられる。このようなコミュニケーション能力を育成するためには、講義形式の授業から、例えば、スピーチ、プレゼンテーション、ディベート、ディスカッションなどを取り入れることにより、生徒の言語活動を中心とした授業へと改善を図る必要がある。」と示されている。

このように、「社会や経済のグローバル化の急速な進展に伴い、単に受信した外国語を理解することにとどまらず、コミュニケーションの中で自分の考えなどを相手に伝えるための『発信力』を育成」（中央教育審議会答申 平成20年1月）し、実際にコミュニケーションを目的として英語を運用していくためには、「聞くこと」、「話すこと」、「読むこと」及び「書くこと」の4技能を「統合」すなわち、4技能を関連付け、複合的に活用する言語活動を取り入れた指導が重要であると本研究では考えた。

「各中・高等学校の外国語教育における『CAN-DOリスト』の形での学習到達目標設定のための手引き」（文部科学省 平成25年3月）では、学習到達目標を「CAN-DOリスト」の形で設定することにより、「グローバル社会に通用する高度な英語力の習得を目指すことのほか、学習指導要領の内容を踏まえた指導方法・評価方法の工夫・改善を行うことや、4技能を有機的に結び付け、総合的に育成する指導につなげること、また、教師と生徒が外国語学習の目的を共有すること」ができることとされている。

これらのことを踏まえ、本研究では、学習到達目標を「CAN-DOリスト」の形で具体的に設定し、スピーチやプレゼンテーションなどの活動を充実させ、4技能を「総合的」すなわち、バランスよく4技能を育成できる言語活動を行うことで、外国語を用いて自らの考えや気持ち、事実などを相手に伝える「発信力」を高め、同時にグローバル社会で求められる前述したようなコミュニケーション能力の育成を目指すものとし、研究主題を「発信力を高めるための4技能の総合的な指導の工夫」と設定した。

## II 研究の視点

本研究では、学習指導要領の目標等に基づき、4技能の総合的な指導法の工夫を行う。また、指導者と学習者が外国語学習の目的を共有するために、教育研究員が所属する各学校の状況や生徒の実態などを踏まえたうえで、「CAN-DOリスト」の作成を行う。

## III 研究仮説

教科書教材を通じて得た知識について、自分の体験や思い・考えなどを織り交ぜ、相手に伝える言語活動を充実させ、4技能を総合的に育成する指導を行えば、発信力を高めることにつながるであろう。その手段として、「CAN-DOリスト」を学習者に示した上で、言語活動を行えば、発信することへの関心・意欲・態度が高まり、発信力を伸ばすことにもつながるであろう。

## IV 研究の方法

### 1 基礎研究

学習指導要領に示された目標や内容などを分析し、教育研究員それぞれの授業実践報告を通じて、教科書教材を活用した「発信力」を高める4技能を統合した言語活動の在り方を協議した。その上で、「受信する」→「考える」→「発信する」学習プロセスを意識した言語活動を教科書の単元毎に提案・実施することとした。また、CEFR<sup>1</sup>の日本版英語能力到達度指標（CEFR-J）などを参考に、生徒の学習の状況や実態などを踏まえて「CAN-DOリスト」を作成した。

### 2 調査研究

基礎研究で作成した「CAN-DOリスト」をもとに、英語を使って「できること」を診断するアンケート（英語力「できること」調査）を作成した。そして、教育研究員の所属校において、生徒を対象とした調査を実施し、生徒の学習到達目標の達成度を把握した。

### 3 授業の実践

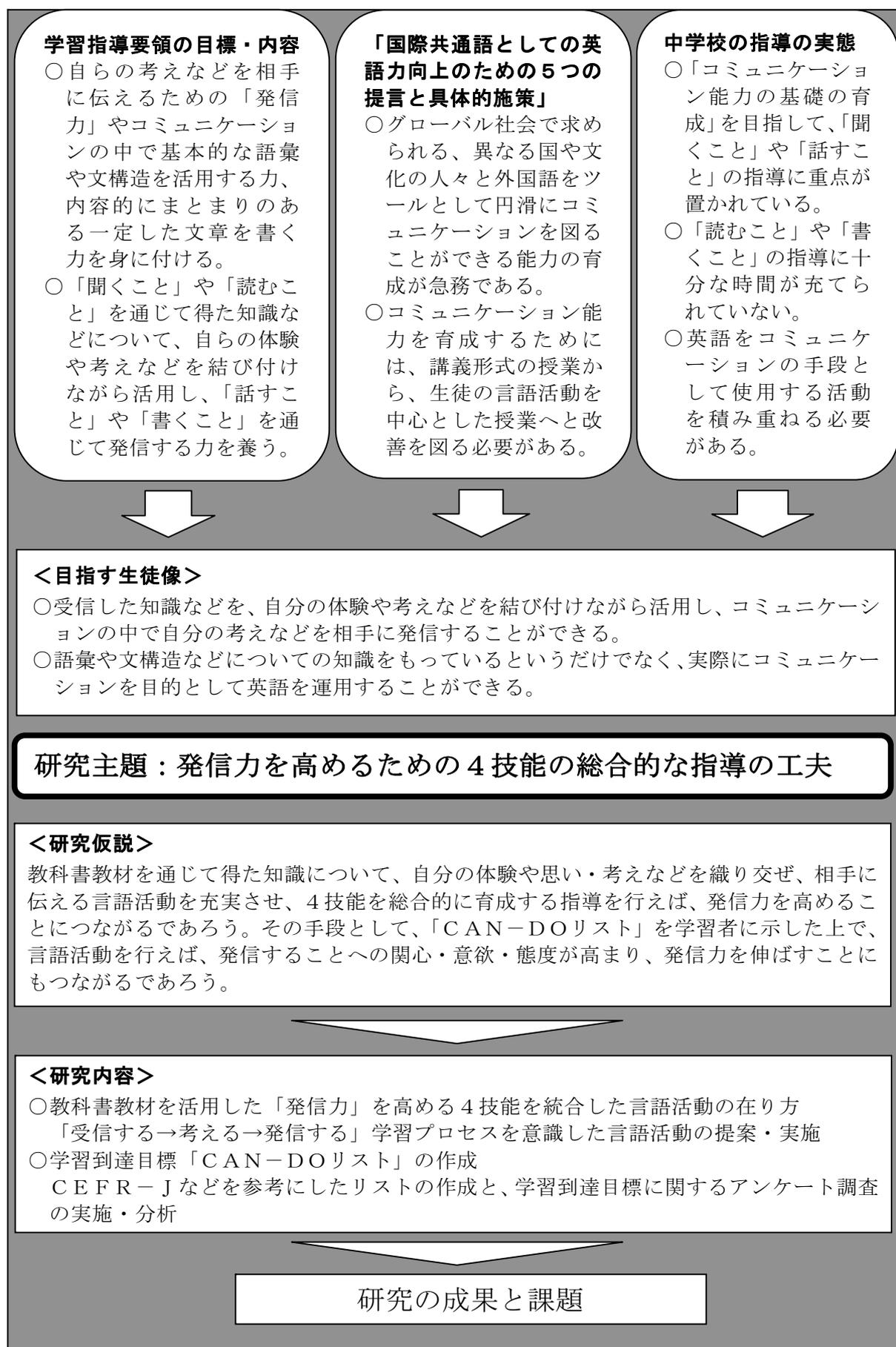
「CAN-DOリスト」を示し、教科書等で「聞くこと」や「読むこと」を通じて受信した知識を、自らの体験や考えなどに照らし合わせ、「話すこと」や「書くこと」を通じて自分の体験や思い・考えを相手に伝える活動を充実させれば、発信力を高めることにつながるであろう、という仮説をたてた。そして、基礎研究、調査研究の結果を踏まえ学習指導案を作成し、教育研究員の所属校において検証授業を行った。

### 4 研究成果のまとめ

教育研究員による検証授業や授業実践における生徒の学習状況と、教育研究員の所属校で行ったアンケート調査の結果などを考察し、研究の成果をまとめた。

<sup>1</sup> 「欧州言語共通参照枠（The Common European Framework of Reference for Languages）」 「各中・高等学校の外国語教育における『CAN-DOリスト』の形での学習到達目標設定のための手引き」において、「CAN-DOリスト」の作成に参照することが推奨されている。

## V 研究構想図



## VI 研究の内容

### 1 CAN-DOリストにおける学習到達目標設定

『国際共通語としての英語力向上のための5つの提言と具体的施策』（平成23年6月）では各中・高等学校において生徒に求められる英語力を「CAN-DOリスト」の形で具体的に設定することを提言している。これを受けて、平成25年3月に文部科学省が発行した「各中・高等学校の外国語教育における『CAN-DOリスト』の形での学習到達目標設定のための手引き」では、英語能力到達度指標（CEFR）などを参考に、生徒や地域の実態に応じて、卒業時の学習到達目標を定め、卒業までに生徒が付ける能力の全体像を4技能別・学年別に「CAN-DOリスト」の形でまとめ、生徒が身に付ける英語能力の全体像を明らかにすることとしている。

本研究ではCAN-DOリスト作成に当たり、CEFR-Jからサンプルを抽出し、研究員所属校の生徒たちがどの程度英語を「できる」と感じているかについて、1年生から3年生までの全学年を対象に調査した。これは、到達目標が生徒の実態から離れることのないようにするためである。各学校において調査した項目は5ページ掲載のとおりである。この結果を基に、卒業時の到達目標を設定するために、3年生の調査結果に注目し、3年生がある程度できると感じているが達成されていない項目から、CEFR-Jレベルで最も高いレベルを中学校3年生のレベルとした。結果の中にはCEFR-Jでは下のレベルの項目であるのに、生徒が「できない」と感じているものがあったり、逆に内容や上のレベルの項目であるのに、「できる」と感じているものがあったりする。それは、生徒が実際に授業で行っている活動ではないからであるという可能性が部会では意見として出された。卒業時の達成目標を設定後、2年生はCEFR-Jで一つ下を、1年生は二つ下を設定した。

### 2 発信力を高める言語活動例について

発信力を高めていくためには、4技能を総合的に育成することが大切である。「読むこと」や「聞くこと」によって知識を得ることに併せて、それらを自らの体験や考えなどに照らし、「話すこと」や「書くこと」に結びつけることが大切である。そのためには、教科書教材を活用し、4技能を統合した言語活動の効果的な指導法の工夫を行う必要があると本研究では考えた。

そこで、本研究の「教科書教材を通じて得た知識について自分の体験や思い・考えなどを織り交ぜ、相手に伝える言語活動を充実させ、4技能を総合的に育成する指導を行えば、発信力を高めることにつながるであろう。」という研究仮説に基づき、①教科書の内容を理解する（受信する）、②理解した知識などを自分の体験や考えなどを織り交ぜ、相手に伝えるための情報を整理する（考える）、③その情報を「話すこと」や「書くこと」によって表現する（発信する）、という学習プロセスを意識した活動が大切であると考えた。

本研究では、この「受信する→考える→発信する」という学習プロセスを意識し、教科書本文の内容を活かして、発信力を高めることを目的とした言語活動例を提案した。この際に留意した点は、教科書の内容をまとめるだけでなく、学習した内容を基に、自分の考えや意見を織り交ぜて発表することを前提とした点である。生徒の実態に応じて実践できるように、現行の教科書全てにおいて各学年・単元ごとに7ページから12ページに示した。

付録 1 - (1) TOKYO CAN-DO LIST 英語力「できること」調査結果 (第3学年)

		質問項目	1	2	3	4
聞くこと	I 2	ゆっくりはっきりと話されれば、作業(料理、工作など)の指示を、絵や写真で確認しながら聞いて理解できる。	5%	16%	50%	29%
	I 1	ゆっくりはっきりと話されれば、行事や習慣などの説明を理解することができる。	5%	18%	49%	28%
	I 4	ゆっくりはっきりと話されれば、自分自身や自分の家族・学校・地域などの身の回りの説明を理解することができる。	5%	20%	47%	27%
	I 5	ゆっくりはっきりと話されれば、買い物や外食などに必要な指示や説明を理解することができる。	6%	24%	50%	20%
	I 6	ゆっくりはっきりと話されれば、スポーツ・料理などの指示を聞いて理解し、指示通りに行動することができる。	7%	24%	50%	19%
	I 7	学校の宿題、旅行の日程などの要点を理解することができる。	6%	24%	48%	22%
	I 3	ゆっくりはっきりと話されている、駅や空港の短いアナウンスを理解することができる。	7%	26%	45%	23%
	I 9	天気予報や空港のアナウンスなどを聞いて、要点を開き取ることができる。	10%	37%	38%	15%
	I 8	自分の周りで話されている長い会話の要点を理解することができる。	16%	41%	34%	9%
	I 10	身近な話題に関するラジオの短いニュースなどを聞いて、要点を理解することができる。	15%	42%	33%	10%
読むこと	II 1	教科書で学んだ表現を用いて書かれた、スポーツ・音楽・旅行などの話に関する文章を、イラストや写真も参考にしながら理解することができる。	5%	14%	46%	36%
	II 2	教科書で学んだ表現を用いて書かれた物語を、イラストや写真も参考にしながら理解することができる。	4%	19%	47%	30%
	II 3	教科書で学んだ表現を用いて書かれた人物や場所、日常生活などの説明文を理解することができる。	6%	20%	46%	27%
	II 10	物語文を辞書を用いれば物語のあらすじを理解することができる。	8%	23%	42%	27%
	II 5	簡単な英語で表現されていれば、旅行ガイドブック、レシピなどから必要な情報を探することができる。	7%	26%	43%	24%
	II 4	教科書で学んだ表現を用いて書かれた物語や歴史的に有名な人物の紹介文などを理解することができる。	9%	28%	43%	21%
	II 6	生活、趣味、スポーツなどを扱った文章の大事なところを理解したり、必要な情報をさがし出したりすることができる。	8%	31%	43%	18%
	II 9	インターネットや参考図書などを調べて、学業や仕事に関係ある情報を手に入れることができる。必要であれば時に辞書を用いて、図表と関連づけながら理解することができる。	10%	38%	36%	16%
	II 8	ゲームのやり方、申込書の記入のしかた、ものの組み立て方などを理解することができる。	13%	37%	35%	15%
	II 7	新聞や雑誌の記事の大事なところを理解することができる。	12%	40%	37%	12%
話すこと	III 2	学校・趣味・将来の希望について、簡単な英語を使って、意見や情報を交換することができる。	7%	17%	48%	28%
	III 9	英語のメモを見ながら、短い自己紹介をすることができる。	5%	17%	46%	33%
	III 1	教科書で学んだ表現を使って、誘ったり、誘いを受けたり、断ったりすることができる。	8%	25%	45%	22%
	III 7	学校・趣味・将来の希望について、簡単な英語を使って、意見や情報を交換することができる。	8%	29%	45%	18%
	III 5	簡単な英語で、ゆっくりはっきり話されれば、意見や気持ちをやりとりすることができ、賛成や反対などの自分の意見を伝えることができる。	8%	32%	44%	16%
	III 10	写真・絵・地図などを利用して、身近なこと(学校や地域など)について短い話をするすることができる。	10%	34%	42%	14%
	III 8	自分の関心のある話題について、簡単な英語を用いて、会話を続けることができる。	13%	33%	40%	15%
	III 4	絵やものなどのを用いて、情報を伝え、それについて簡単な意見交換することができる。	9%	37%	42%	12%
	III 14	自分の考えを事前に準備して、メモの助けがあれば、馴染みのあるトピックや自分に関心のある事柄について語るることができる。	12%	35%	40%	13%
	III 11	英語のメモを見ながら、写真・絵・地図などを利用して簡単な単語や文で自分の毎日の生活に直接関連のあるトピック(自分のこと、学校のこと、地域のことなど)について、短いスピーチをすることができる。	13%	35%	39%	13%
	III 6	郵便局・駅・店などで、簡単な語や表現を用いてやり取りができる。	10%	38%	40%	12%
	III 13	使える単語や表現を総じて、自分の経験や夢、希望を順序だて、話しを広げながら、ある程度詳しく語るることができる。	16%	38%	36%	10%
	III 12	メモを使いながら、自分の意見や行動計画を理由をつけて言うことができる。	13%	41%	35%	11%
	III 3	firstやthen, nextといった簡単なつなぎ言葉を使って、道案内をすることができる。	17%	40%	32%	11%
	III 15	短い読み物か短い新聞記事であれば、ある程度すらすらと、自分の感想や考えを加えながら、あらすじや要点を順序だてて伝えることができる。	20%	42%	30%	8%
	III 16	自分の関心事であれば、社会の状況(ただし自分の関心事)について、自分の意見を加えてある程度すらすらと発表し、聞いている人から質問があれば相手に理解できるように答えることができる。	23%	44%	26%	6%
書くこと	IV 1	教科書で学習した表現等を用いて、好きなことや家族、学校生活などについて書くことができる。	10%	20%	40%	30%
	IV 3	辞書を用いて、自分が経験したことについて書くことができる。	8%	25%	42%	25%
	IV 4	複数の文を用いて、趣味や好き嫌いについて書くことができる。	9%	25%	41%	25%
	IV 2	教科書で学習した表現等を用いて、年賀状やクリスマスカード、メッセージカードなどを書くことができる。	9%	27%	39%	25%
	IV 8	開いたり読んだりした内容(生活や文化の紹介などの説明や物語)であれば、教科書で学習した表現等を用いて、感想や意見などを書くことができる。	10%	34%	44%	13%
	IV 6	and, but, becauseなどの接続詞を用いて、日記や写真、事物の説明文などのまとまりのある文章を書くことができる。	11%	32%	40%	17%
	IV 5	自分に関わりのある内容であれば、招待状や手紙、メッセージなどを書くことができる。	11%	35%	40%	15%
	IV 7	身の回りの出来事や趣味、場所、仕事などについて、自分の経験や自分に関わりのある事柄であれば、まとまりのある文章を書いて説明することができる。	14%	36%	37%	13%
	IV 9	自分に関わりのある環境(学校、家庭、職場、地域など)での出来事を、教科書で学習した表現等を用いて、まとまりのある文章を書いて説明することができる。	13%	38%	37%	12%
	IV 10	教科書で学習した表現等を用いれば、筋道を立てて、作業の手順などを示す説明文を書くことができる。	16%	40%	35%	9%

1 : ほとんどできない    2 : あまりできない    3 : ある程度はできる    4 : ほぼできる

# TOKYO CAN-DO LIST

技能	第1学年(学年末)	第2学年(学年末)	第3学年(学年末)
聞くこと	ゆっくりはっきりと話されれば、自分自身や自分の家族・学校・地域などの身の回りの説明を理解することができる。	ゆっくりはっきりと話されれば、スポーツ・料理などの指示を聞いて理解し、指示通りに行動することができる。	ゆっくりはっきりと話されれば、行事や習慣などの説明を理解することができる。
	ゆっくりはっきりと話されれば、買い物や外食などに必要な指示や説明を理解することができる。	ゆっくりはっきりと話されれば、作業(料理、工作など)の指示を、絵や写真で確認しながら、聞いて理解できる。	自分の周りで話されている長い会話の要点を理解することができる。
読むこと	教科書で学んだ表現を用いて書かれた、スポーツ・音楽・旅行などの話に関する文章を、イラストや写真も参考にしながら理解することができる。	教科書で学んだ表現を用いて書かれた人物や場所、日常生活などの説明文を理解することができる。	簡単な英語で表現されていれば、旅行ガイドブック、レシピなどから必要な情報を探することができる。
	教科書で学んだ表現を用いて書かれた物語を、イラストや写真も参考にしながら理解することができる。	教科書で学んだ表現を用いて書かれた物語や、歴史的に有名な人物の紹介文などを理解することができる。	生活、趣味、スポーツなどを扱った文章の大事なところを理解したり、必要な情報を探することができる。
(会話) 話すこと①	簡単なつなぎ言葉を使って、道案内をすることができる。	簡単な英語で、ゆっくりとはっきり話されれば、意見や気持ちをやりとりすることができる。	学校・趣味・将来の希望について、簡単な英語を使って、意見や情報を交換することができる。
	絵やものなどのを用いて、情報を伝え、それについて簡単な意見交換することができる。	店・駅・空港などで、簡単な語や表現を用いてやり取りができる。	自分の関心のある話題について、簡単な英語を用いて、会話を続けることができる。
(発表) 話すこと②	メモを見ながら、短い自己紹介をすることができる。	メモを見ながら、写真・絵・地図などを利用して簡単な語句や文で自分の毎日の生活に直接関連のあるトピック(自分のこと、学校のこと、地域のことなど)について、短いスピーチをすることができる。	使える語句や表現をつないで、自分の経験や夢、希望を順序だて、話しを広げながら、ある程度詳しく語ることができる。
	写真・絵・地図などを利用して、身近なこと(学校や地域など)について短い話をすることができる。	メモを使いながら、自分の意見や行動計画を理由を添えて言うことができる。	自分の考えを事前に準備して、メモを見ながら、馴染みのあるトピックや自分に関心のある事柄について語ることができる。
書くこと	辞書を用いて、自分がしたことについて書くことができる。	自分に関わりのある内容であれば、招待状や手紙、メッセージなどを書くことができる。	身の回りの出来事や趣味、場所、仕事などについて、自分の経験や自分に関わりのある事柄であれば、まとまりのある文章を書いて説明することができる。
	複数の文を用いて、趣味や好き嫌いについて書くことができる。	日記や写真、事物の説明文などのまとまりのある文章を書くことができる。	聞いたり読んだりした内容(生活や文化の紹介などの説明や物語)であれば、教科書で学習した表現等を用いて、感想や意見などを書くことができる。
英検	5級	4級	3級
CEFR-J レベル	聞く・話す:A2.1 読む・書く:A1.3	聞く・話す:A2.2 読む・書く:A2.1	聞く・話す:B1.1 読む・書く:A2.2

付録 2 - (1) 発信力を高める言語活動例 (COLUMBUS 版)

学年	課	課名と内容	言語材料	言語活動例
第1学年	1	Hi!	S+V(am, are)+C (名詞)	・簡単な自己紹介のスピーチをする。
	2	At School	S+V(is)+C (名詞)	・教科書の登場人物や有名人になりきり、自己紹介をする。
	3	The Teachers	S+V(is)+C (名詞), 疑問詞 What	・自分の家族や友達など周りの人を紹介する。
	4	On the Way Home	S+V (一般動詞)+O, 名詞の複数形	・自分が好きなことなどを紹介する。
	5	A Summer Festival	S+V (一般動詞)+C (形容詞), 命令文, 疑問詞 Who	・自分の持っている物や着ている物について説明する。
	6	Breakfast Time	疑問詞 What time・Which・Where, 3人称単数形現在形	・本文の内容を基にスキットを作成して発表する。
	7	Cheer Up, Tina	3人称単数形現在形, May I~?	・本文の内容を基に、電話での会話スキットを作成して発表する。
	8	Feel the Beat	助動詞 can, 疑問詞 When	・自分ができること又はできないことを発表する。
	9	Tina's School Life	現在進行形	・オーストラリアの中学生に、日本の学校生活についてのメールを書く。
	R.1	What Am I?		・What am I?を作成し、発表する。
	10	Happy New Year	過去形 (規則動詞)	・新年の願い事を発表する。
11	Tina and Japan	過去形 (不規則動詞)	・昨日したことを説明する文を作成して発表する。	
第2学年	1	Tina's Speech	過去形 (be 動詞), 疑問詞 Why	・春休みにしたことを説明する文を作成して発表する。
	2	Nick Helps a Dog	過去進行形, S+V+O(that 節), 複文 (接続詞 when)	・過去の出来事について日記を書く。
	3	Plans for the Summer	未来表現	・夏休みの予定を立て、訪れる相手に手紙を書く。
	4	Taku Gets Lost	There 構文, 助動詞表現	・自分の住んでいる町にある施設を紹介する。
	R.1	Living with Robots		・ロボットを作るとしたら、どんなロボットを作るか考えて発表する。
	5	Aya's Time in Okinawa	動名詞, to 不定詞	・夏休みの経験についてスピーチをする。
	6	A Therapy Dog	to 不定詞, 助動詞表現	・セラピードッグになるために、しなければならないこと、してはならないことを説明する。
	7	You are the Problem	形容詞の比較級と最上級	・本文にあるような言い争いを避けるには、どんな言い方をしたらいいか考えて発表する。
	8	Christmas Concert	同級比較・副詞の比較級と最上級, S+V+O+O	・本文の内容について、登場人物の立場になり、自分の意見を発表する。
	R.2	Elephant Time and Mouse Time		・Reading Task(p.89)で提示されている二つの質問に対して、自分の意見と理由を述べる。
	9	Good-bye, Miho	受動態, 複文(接続詞 if)	・登場人物の立場になって、別れの手紙を書く。
	R.3	Clancy		・人間が平和に暮らすために大切なのはどんなことか意見を発表する。
	第3学年	1	DVD Letter from Seoul	受動態
2		How Do They See Japan?	現在完了形 (継続・完了)	・登場人物の意見に対し、自分の感想を述べる。
3		Tina's School Trip	現在完了形 (経験), It+is+~ (for~)+to 不定詞	・本文の内容を基に、修学旅行新聞の記事を書く。
R.1		Visa for 6,000 Lives		・杉原千畝とその妻の行動や考え方について自分の意見を発表する。
4		A Guest from Cambodia	現在分詞の後置修飾, 過去分詞の後置修飾	・世界の子供たちの学校生活の様子を調べ、英語で書く。
5		Dreams for the Future	S+V+O+C(形容詞), 関係代名詞 (主格)	・将来の夢についてスピーチをする。
6		Tina's Student News-Net	関係代名詞 (目的格), 間接疑問文	・本文の内容について、最も興味をもった活動とその理由を発表する。
7		The Last Concert	S+V+O+C(to 不定詞)	・中学校生活を振り返り、お世話になった人に感謝の手紙を書く。
R.2	Changing the World		・スピーチを読んで感想を述べる。 ・Changing the World という題名で自分が今後できることについて発表する。	

付録 2 - (2) 発信力を高める言語活動例 (NEW CROWN 版)

学年	課	課名と内容	言語材料	言語活動例
第1学年	1	I am Tanaka Kumi	I am ..., You are ...	・教科書の登場人物や有名人などになりきり、自己紹介をする。
	2	My School	This is ... , 疑問詞 What, He(She) is ...	・身近なものについて、説明する。
	3	I Like Kendama	I have ... , What do you have ...?	・自分の好きなものや持ちものなどについて説明する。 ・スキットを作成し発表する。
	4	Field Trip	複数形, 疑問詞 How many, 命令文	・持ち物の数を質問したり、説明したりする。
	5	Our New Friend from India	疑問詞 Who・Where・When, him・her(人称代名詞目的格)	・教科書の登場人物や有名人などになりきり、インタビューし合う。
	SR	My Treasure		・自分の大切なものについて、実物や絵、写真を使いながら発表する。
	6	My Family in the UK	3人称単数現在形	・自分の家族や友人など、周りの人を説明する。
	R.1	Alice and Humpty Dumpty		・ピクチャーカードを使いながらグループで朗読する。
	7	Wheelchair Basketball	助動詞 can	・スポーツのルールについて発表する。
	8	School Life in the USA	現在進行形	・自分の学校を海外に紹介する文章を書く。
	9	Four Seasons in Japan	過去形(規則動詞・不規則動詞)	・グリーティングカードに1年間の思い出を書く。
	R.2	A Girl Saved Many Lives		・本文の内容について、ピクチャーカードを使いながら説明する。
第2学年	1	Aloha!	過去形(規則動詞・不規則動詞) <復習>	・春休みのできごとや体験したことについて、絵日記を書いて発表する。
	2	A Calendar of the Earth	be 動詞の過去形過去進行形, 接続詞 When	・自分の成長について書いて発表する。
	3	For Our Future	未来を表す表現(will・be going to ... ), 接続詞 that, must	・環境問題について、自分の考えを発表する。
	4	Enjoy Sushi	There is [are] ... , 動名詞	・身近な地域の名所や名物を紹介する文章を書く。
	R.1	A Pot of Poison		・本文の劇をグループで分担し、演じる。
	5	My Dream	不定詞(名詞用法・副詞用法・形容詞用法)	・将来の夢についてスピーチをする。
	6	Uluru	SVOC(give など+A+B), SVC(look など+A)	・興味のある海外の情報を取り寄せるための手紙を書く。
	7	Good Presentations	比較級(-er), 最上級(-est), 比較級(more), 最上級(most), as ~ as, better, best	・クラスで人気のあるものについて、グループでテーマを一つ決め、アンケート調査をし、その結果をグラフにまとめて、発表する。
8	India, My Country	受け身形	・行きたい国について調べ、発表する。	
第3学年	1	My Favorite Words	受け身形<復習>	・好きな言葉についてのスピーチをする。
	2	Finland-Living with Forests	現在完了形(継続用法)	・有名人にインタビューをするスキットを作成し、発表する。 ・長く続けているスポーツや趣味などを尋ね合い、レポートにする。
	3	Rakugo Goes Overseas	現在完了形(経験用法, 完了用法), be glad to ...	・海外に紹介したい日本の伝統文化とその理由を発表する。
	4	The Story of Sadako	SVOC(call / make+A+B), It is ~ for A to ...	・佐々木禎子の略歴年表を作成する。 ・ピクチャーカードを使いながら、佐々木禎子について自分の考えを説明する。
	R.1	Learning from Nature		・本文で扱われている、自然界から学んだ技術の中から一つ選び、感想と共に説明する。
	5	Houses and Lives	関係代名詞(who・that[主格・目的格]・which[主格])	・ALT に対して、日本の生活文化について説明する。
	6	I Have a Dream	後置修飾(動詞の-ing 形, 過去分詞形)	・尊敬する人について調べて発表し、自分の意見を述べる。
	7	We Can Change Our World	want+A+to ... , 間接疑問(Why など)	・本文の内容について、ピクチャーカードを使いながら説明し、感想を述べる。
	8	English for Me	how など+to... ,	・英語の授業で印象に残っていることを発表する。
R.2	A Moment of Peace		・本文のセクションごとにグループで役割分担し、内容が伝わるように朗読する。	

付録 2 - (3) 発信力を高める言語活動例 (NEW HORIZON 版)

学年	課	課名と内容	言語材料	言語活動例
第1学年	1	ようこそ、日本の学校へ	S + V (be 動詞) + C	・本文中の登場人物になりきってスキットを発表する。
	2	みんな友達	代名詞 (this, that, he, she) + V (be 動詞) + C	・本文を基に、友達を紹介するスキットを作成して発表する。
	3	はじめまして、ブラウン先生	S + V (一般動詞) + O	・自己紹介のスピーチを作成し発表する。
	4	楽しい昼休み	疑問詞 What, S + V (be 動詞) + C (形容詞)	・好きな食べ物やスポーツについて友達に尋ねる。
	5	お祭り大好き	名詞の複数形, 疑問詞 How many, Let's・命令文	・本文を基に、店員と客のスキットを作成して発表する。
	6	ベッキーのおばあちゃん	3人称単数現在時制	・自分の家族や友達などの周りの人を紹介するスピーチを作成して発表する。
	7	サンフランシスコの学校	疑問詞 Who・What time・What + 名詞・Which	・自分たちの学校を紹介する文章を作成して発表する。
	8	ナンシーに会いに	疑問詞 Where・Whose, 代名詞目的格	・本文をもとに、持ち物や場所を尋ねるスキットを作成して発表する。
	9	ケーブルカーに乗って	現在進行形, Don't, Be + 形容詞	・絵や写真を使いながら、本文について説明する。
	10	観光地から	助動詞 can, 疑問詞 When	・絵や写真を使いながら、本文について説明する。
	11	一年の思い出	一般動詞過去形 (規則・不規則)	・1年間の思い出についてスピーチする。
第2学年	1	Dog with Jobs	be 動詞の過去形, 過去進行形, S + V + C [look]	・絵や写真を使いながら、盲導犬について説明し、感想を述べる。
	2	A Trip to New Zealand	be going to, show + O + C, call + O + C	・本文をもとに、絵や写真を使いながら、ニュージーランドの自然や動物について説明する。
	3	My Future Job	不定詞 (副詞的用法・名詞的方法・形容詞的用法)	・自分の夢についてのスピーチをする。
	4	Homestay in the United States	have to・don't have to, will must・must not	・学校や学級、生活班などのルールを作成して発表する。
	5	A New Language Service	接続詞 (if, that, when, because)	・住んでいる町をより良くするアイデアを、理由と共に発表する。
	6	The Story of an Old Clock	There is [are], Is there・Are there...?, 動名詞 (目的語、主語)	・絵や写真を使いながら、「大きな古時計」について説明し、感想を述べる。
	7	My Favorite Movie	比較級 -er・最上級 -est, 比較級 more・最上級 most, good - better - best, as...as	・“E.T.”のあらすじを発表する。 ・好きな映画を選び、理由と共に紹介する。
第3学年	1	Sign Language	受動態, S + V + O + C [make]	・自分の気持ちを表す手話について調べ、手話を使いながら説明する。
	2	A Fireworks Festival	現在完了 (継続)	・絵や写真を使いながら、レポーターになりきって花火について説明する。
	3	Fair Trade Chocolate	現在完了 (経験、完了), 不定詞 (感情の原因)	・本文を基に、Tim に手紙を書く。
	4	Learn by Losing	疑問詞 + 不定詞, It... for ~ to, want + 人 + to	・教科書 53 ページ文章のまとめ方を参考に本文をまとめ、発表する。
	5	Electronic Dictionaries -- For or Against	分詞の形容詞的用法, 間接疑問文	・身近なテーマについて話し合う。
	6	Break the Barrier	関係代名詞 (who / which / that) の主格・目的格	・尊敬する人や大切な人について発表し、自分の意見を述べる。

付録 2 - (4) 発信力を高める言語活動例 (ONE WORLD 版)

学年	課	課名	言語材料	言語活動例
第1学年	1	アヤの新しいクラス	S+V(be動詞 am,are)+C	・教科書の登場人物や有名人などになりきり、自己紹介をする。
	2	学校で	S+V(be動詞 is)+C, 疑問詞 What	・絵や写真を使ってスキットを作成して発表する。
	3	アヤの友だち	S+V(一般動詞)+O, 疑問詞 What・some,any	・自分の好きなことや好きではないことを含めた自己紹介をする。
	4	キング先生の家族	S(He・She)+is~, 疑問詞 Who・Whose, 人称代名詞 (her・him)	・有名人の写真を使ってスキットを作成して発表する。
	5	中華街に行こう	三人称単数現在時制, 疑問詞 Where	・自分の家族やペットについてイラストや写真を使って説明するスピーチをする。
	6	メイの誕生日パーティー	疑問詞 When, How many~?, What time~?, 一般動詞の命令	・誕生日パーティーについて他の生徒にインタビューし、ポスターを作成して発表する。
	7	マンガ大好き	助動詞 can	・好きなマンガのキャラクターや芸能人ができることやできないことについて説明する。
	8	それぞれの冬休み	現在進行形, 疑問詞 Why	・本文の内容についてピクチャーカードを使いながら説明する。
	9	シンガポールで	一般動詞過去形, 付加疑問文	・ピクチャーカードを使いながら、夜の動物園について説明する。
	10	メイのおじいさん	一般動詞過去形(不規則動詞), be動詞過去形	・行ったことのある日本や世界の観光地について調べ、紹介するポスターを作成する。
	R.1	Alone		・ピクチャーカードを使い、グループで紙芝居風に音読する。
第2学年	1	A New Student from Korea	一般動詞過去形(規則変化・不規則変化), 過去進行形, SVOO	・春休みについての日記を作成して発表する。
	2	Golden Week	There is・are ~., S+V(be動詞以外)+C	・ゴールデンウィークに行った場所について紹介する。
	3	Summer Vacation	未来形(助動詞 will, be going to~), 不定詞(名詞用法)	・本文を基に、理想の夏休みの予定を考え、発表する。
	R.1	Stone Soup		・教科書本文をグループで役割分担し、演じる。
	4	Robot Contest	動名詞, I think+(that)節~, 接続詞 when・ifの複文	・自分が考える理想のロボットについて、できることや役に立つことなどを絵や写真を使いながら説明し、発表する。
	5	Halloween Party	助動詞 should, have to・don't have to, may	・本文を基にハロウィーンについて発表する。
	6	Internship	不定詞(副詞用法), S+V+what to(how to)不定詞	・自分の職業体験や行ってみたい職業体験について、その理由などを交えたスピーチをする。
	R.2	A Message from the Sea Ice		・タテゴトアザラシの生態について本文を基にまとめ、生き物を守るために何ができるのか自分の意見を発表する。
	7	Homestay in Australia	比較級・最上級・同等比較	・オーストラリアについて、日本と比較しながら説明する。
	8	Aya's Reports about Australia	受け身	・有名な建築物が、いつ誰によって、何の目的で建てられたのかについて調べ、ポスターで発表する。
	9	An Interesting Survey	不定詞(名詞用法), It+be動詞+(for)+to~, S+tell+目的語+to不定詞	・グループでテーマを一つ決めてクラスでアンケート調査し、その結果をポスター発表する。
R.3	The Gift of Tezuka Osamu		・手塚治虫の生涯について略歴年表を作成し、発表する。	
第3学年	1	Our School Trip to Kyoto and Nara	受け身, SVOC(C-名詞), SVOC(C-形容詞)	・修学旅行の事前研究のレポートを作成して発表する。
	2	Kenta's Homestay in London	現在完了形(継続・経験)	・ホストファミリーへ自分を紹介したり、相手のことを尋ねたりする手紙を書く。
	3	Our First Rakugo in English	現在完了形(完了), S+V+whatで始まる節	・本文で扱われている落語についてまとめ、自分の考えたオチをつけて発表する。
	R.1	Audrey Hepburn		・オードリー・ヘップバーンの活躍についてまとめ、自分の感想とともに発表する。
	4	A World without Landmines	前置詞句による後置修飾, 不定詞の形容詞用法による後置修飾, 現在分詞, 過去分詞	・地雷について分かったことや自分たちにできることを、自分の感想とともに発表する。
	5	Today's News	関係代名詞(who, which)	・話題になっている人や物一つ取り上げ、自分の感想や考えとともに発表する。
	6	Protecting Nature	関係代名詞(which), 原因・理由を表す表現	・絶滅危惧種について調べ、その保護のために自分たちにできることをパンフレットにする。
	R.2	Body Clocks		・体内時計について、自分の生活の中で変える必要のあることや効率的にできることを含め、発表する。
7	Boxed Lunches or School Lunches		・「給食派」と「弁当派」のどちらに賛成か決め、その理由を説明し、グループで話し合う。	

付録 2 - (5) 発信力を高める言語活動例 (SUNSHINE 版)

学年	課	課名	言語材料	言語活動例
第 1 学年	1	好きなもの、できること あいさつ、アルファベット	I like ~. , I can ~.	・自分の好きなものやできることを発表する。
	2	アメリカからの転校生	I am ~.・ You are ~. , Are you ~?, I'm not ~.	・自分の好きな人 (アーティストや歴史上の人物など) になりきり、友達とお互いに自己紹介をする。
	3	ウッド先生がやってきた	I like ~., Do you ~?, I don't ~.	・スポーツ、食べ物、動物などの好き嫌いとその程度について、インタビュー活動をする。
	4	リサイクル活動	What do you ~?, How many ~?	・ペアになり、買い物のやりとりをしながら、ほしい物の数を探ね合うスキットを作成して発表する。
	R.1	英語の掲示・標識など	Reading	・英語の掲示や標識についての説明文を作り、ジェスチャーを使いながら説明する。
	5	国際フードフェスティバル	This is ~. Is that ~?・ Where is ~?・ He is ~.・ She is ~.	・家族や友達などの身近な人について、写真を見せながらスピーチをする。
	6	由紀のイギリス旅行	She plays ~. Does he like ~? , She doesn't like ~.	・好きな有名人について、写真などを見せながらクイズを出す。
	7	Dilo the Dolphin	Who is ~?, him, her , When do you ~?	・イルカの Dilo についてグループで調べ、写真などを使いながらグループで発表する。
	8	Origami	He can ~. , Can you ~?, How do you ~?	・本文の内容を基にスキットを作成して発表する。
	9	A New Year's Visit	I am cooking ~. , Are you studying ~?, What are you doing?	・本文の内容を基に電話での会話のスキットを作成して発表する。
	R.2	想像しながら読んでみよう	Reading	・本文の後に続く物語を自分で考えて作成して発表する。
10	Mike's Visit to Washington, D.C.	Did you ~?, Why do you ~? Because ~.	・好きなテレビ番組や有名人などについて尋ね合い、相手の言ったことに対して理由を尋ねたりする。	
11	Flowers in the Classroom	I had ~., Did you go ~?, I went ~.	・グループで本文の内容をまとめ、イラストなどを使いながらプレゼンテーションする。	
第 2 学年	1	Did You Enjoy Your Vacation?	I was ~., They were ~., She was running ~.	・春休みや過去の出来事について日記を書いて発表する。
	2	A Trip to England	I am going to ~. , I will ~.	・家族旅行の計画を立て、日程表や行動予定表を作成して発表する。
	3	Charity Walk	You must ~., We (don't) have to ~., I think (that) ~.	・本文の内容についてまとめ、ピクチャーカードを使いながら説明し、感想を述べる。
	4	The Pillow	Reading	・自分がほしい枕の特徴を説明する。
	5	Gulliver's Travels	There is [are] ~. , When ~, ... , If ~, ...	・自分が住んでいるところを紹介する文を書き、発表する。
	6	A Work Experience Program	I want to be ~. , I went there to see ~. , something to drink	・将来なりたいものについてスピーチをする。
	7	If You Wish to See a Change	I enjoy playing ~. , You look ~. , I'll give you ~.	・本文を読んで、自分だったら何をしたいか述べる。
	8	A Shelter for Pet Animals	Reading	・本文の内容について、ピクチャーカードなどで場面を示しながらグループで音読する。
	9	A Priest in a Mask	smaller than ~, the longest ~, as big as ~	・本文の登場人物について、ピクチャーカードを使いながら発表する。
	10	So Many Countries, So Many Customs.	more difficult than ~, the most , better than ~, the best	・季節やスポーツなど、身近な話題について自分の考えを整理し、話し合う。また、自分の考えをまとめて発表する。
	11	Yui - To Share Is to Live.	Is made, was written by ~	・今までに見た印象的な景色を紹介する。
	12	Her Dream Came True.	Reading	・本文をまとめ、感想と共に発表する。
第 3 学年	1	How Does Your School Chime Sound?	I have already learned ~. , Have you finished ~?, I haven't ~.	・本文の内容を説明し、感想を発表する。
	2	Volcanoes in Japan	We have been ~. , I have visited ~. , I have never been to ~.	・日本の名所や史跡などについて紹介する。
	3	The 5 Rs to Save the Earth	It's hard for me to get up ~. , know how to play ~. , ask him to call ~	・地球を救うために、自分たちができることや大切なことを調べて発表する。
	4	Faithful Elephants	Reading	・本文のあらすじをまとめる。 ・各セクションに英語のタイトルを付けて発表する。
	5	Sushi -Go-Around in the World	call her Alex , make me happy , I don't remember when ~.	・本文をまとめ、ALT に分かりやすく寿司について説明する。
	6	Let's Talk about Things Japanese.	the man sitting ~. , the temple built ~	・日本の伝統文化の一つを選び、絵などを使いながら説明する。
	7	What Is the Most Important Thing to You?	関係代名詞 who (主格)・ which (主格)・ that (主格)	・国際協力師として働く山本さんを紹介し、世界を良くするために働く人々を育成するためには何が大切か発表する。
	8	Clean Energy Sources	関係代名詞 which (目的格)・ that (目的 格)・ 関係代名詞 (目的格) の省略	・自分たちが住んでいる地域に適する発電方法を説明する文を書く。
	9	Mother Teresa	Reading	・マザーテレサの生き方について感じたことを発表する。
	10	After Twenty years	Reading	・本文の物語についてグループで役割を分担し、演じる。

## 2-(6) 発信力を高める言語活動例 (Total 版)

学年	課	課名と内容	言語材料	言語活動例
第1学年	1	I Like Soccer.	S+V (一般動詞) +O	・スポーツ、食べ物から一つ話題を選んで、好きなことと好きでないことについてイラストなどを使いながら発表する。
	2	Pets and Hobbies	名詞の複数形, 疑問詞 What・How many	・自分の趣味やペットについて発表する。
	3	Hello, Everyone.	S+V(am, are)+C (名詞)	・教科書の登場人物や有名人などになりきり、自己紹介をする。
	4	Nice to Meet You.	S+V(is)+C (形容詞)	・本文を基にした友達紹介のスキットを作成して発表する。
	5	Ms. Hall's Family	3人称単数形現在時制, 疑問詞 Who	・自分の家族や友達など周りの人について説明する。
	6	Junior High School in America.	複数主語, 疑問詞 Where	・ALTに対して自分の学校の校舎の特別教室などを紹介するスキットを作成して発表する。
	7	New Year	助動詞 can, 疑問詞 When	・写真やイラストを使っておせち料理を説明する。
	8	Braille	現在進行形, 疑問詞 Which	・電話での会話のスキットを作成して発表する。 ・写真を見せ、現在進行形を用いて説明する。
	R.1	An All-purpose Cloth		・風呂敷の使い方を説明しながら実演する。 ・本文をまとめ、イラストなどを使ってポスターを作成する。
	9	A Letter from Australia	過去形 (規則動詞・不規則動詞)	・本文に出てきたオーストラリアの動物について、写真を用いて説明する。 ・冬休み中に行ったところについての手紙を友達や先生宛てに書く。
R.2	Who is Joey's Favorite Girl?		・本文をグループで役割分担して演じる。	
第2学年	1	Japanese Sports	過去形 (be 動詞), S+V(be 動詞以外)+C	・春休みや週末にしたことについて発表する。
	2	Gestures	過去進行形, 複文 (接続詞 when), S+V+O(that 節)	・本文を基にして、ジェスチャーについての説明文を作り、ジェスチャーを使いながら発表する。
	3	Flight to the U.K.	未来表現	・本文を基にして、飛行機の機内アナウンスや入国審査のスキットを作成して発表する。
	4	Taku in the U.K.	助動詞表現	・日本を訪れた外国人観光客をもてなすスキットを作成して発表する。
	R.1	Universal Design		・ロナルド・メースの立場になって、ユニバーサルデザインについて説明する。
	5	Career Experience	To 不定詞	・職場体験について、志望理由などを含めてスピーチをする。
	6	The 3Rs in Germany and Japan	動名詞, S+V+O+O, 疑問詞 Why	・身近にある 3Rs のいずれかの例を調べて発表する。
	R.2	Red Demon and Blue Demon		・本文の登場人物をグループで役割分担して朗読劇として発表する。 ・青鬼からの手紙を読んだ赤鬼の気持ちになって返事の手紙を書いて発表する。
	7	World Heritage Sites	形容詞の比較級と最上級	・世界遺産の一つを選んで、写真などを使いながらスピーチをする。
	8	Manga, Anime and Movies	同級比較, 副詞の比較級と最上級, 複文(接続詞 if)	・自分の好きなアニメや映画、マンガの一つを選んで、理由などを含めて紹介する。
R.3	Mother Teresa		・本文をまとめ、ピクチャーカードを使いながら、説明するとともに、感想を述べる。	
第3学年	1	Report for Our School Trip	S+V+O+C (名詞), 受動態, 付加疑問文	・修学旅行事前研究のレポートを作成して発表する。
	2	Junior High School Club Life	現在完了形 (完了), S+V+O+C (形容詞)	・部活動の仲間や顧問の先生に、部活動で学んだことについての手紙を書く。(又はスピーチをする。)
	3	E-mails from the U.S. and India	現在完了形 (継続, 経験), It+is+~(for)+to 不定詞	・日本の習慣を説明するパンフレットを作成する。
	R.1	Energy and the Environment		・本文をまとめ、ピクチャーカードを使いながら、ストーリーを簡潔に説明するとともに、環境問題について学んだことの感想や自分たちができることを発表する。
	4	Speech—A Man's Life in Bhutan	現在分詞・過去分詞の後置修飾	・ブータンの人の立場になって西岡さんの活動を発表する。
	5	Stevie Wonder—The Power of Music	関係代名詞 (主格)	・スティービー・ワンダーの略歴年表を作成する。 ・有名人を取り上げて、人物像とその活動内容を紹介する。
	6	Interesting Languages	関係代名詞 (目的格)	・世界の人々に知ってほしい日本語の一つを選び、その説明文を作成して発表する。
	7	The Diary of Anne Frank	間接疑問文	・本文の内容と、戦争と平和についての自分の考えを英文にまとめる。
	R.2	Fly Away Home		・セクションごとに、本文の各シーンをグループで演じる。

### 3 検証授業A

第1学年で、次に示す検証授業を行った。

#### (1) 使用教科書 *SUNSHINE ENGLISH COURSE 1* (開隆堂)

単元 PROGRAM 5 「国際フードフェスティバル」

#### (2) 単元の目標

- ア ペア活動、グループ発表などの言語活動に積極的に参加しようとする。
- イ 指示代名詞 (*this /that*)、疑問詞 (*Where*)、人称代名詞 (*he/she*) を用いた文を理解した上で、対話できる。
- ウ 身の回りの物を紹介したり、どこにあるかを尋ねたりできるようにする。
- エ 人物を紹介できるようにする。

#### (3) 単元の評価規準

ア コミュニケーションへの関心・意欲・態度	イ 外国語表現の能力	ウ 外国語理解の能力	エ 言語や文化についての知識・理解
① 教師や他の生徒の英語を理解し、答えようとしている。 ② 口頭練習や人物紹介等の言語活動に積極的に参加しようとしている。	① 指示代名詞 ( <i>this /that</i> )、疑問詞 ( <i>Where</i> )、人称代名詞 ( <i>he/she</i> ) を用いた文を使って、正しく話したり、書いたりできる。 ② 人物紹介を書いて発表できる。	① 指示代名詞 ( <i>this /that</i> )、疑問詞 ( <i>Where</i> )、人称代名詞 ( <i>he/she</i> ) を用いた文を聞いたり読んだりして、その内容を理解できる。 ② まとまった内容の文章を聞き取り、要点を理解できる。	① 指示代名詞 ( <i>this /that</i> )、疑問詞 ( <i>Where</i> )、人称代名詞 ( <i>he/she</i> ) を用いた文の形、意味、用法が理解できる。 ② 各国の食文化等を知り、文化の違いについて理解できる。

#### (4) 指導観

##### ア 単元観

言語材料は、指示代名詞 (*this /that*)、疑問詞 (*Where*)、人称代名詞 (*he/she*) である。こうした、指示代名詞、疑問詞、人称代名詞の使い方を正しく理解させた上で対話させ、身近な人物を紹介できるように指導する。ペア活動からグループ発表へと発展させ、多くの人に情報を伝える体験を与える。

##### イ 教材観

指示代名詞、疑問詞、人称代名詞の使い方を理解するだけでなく、正しい形が自然に使える

るように指導したい。また、**he / she** の音声が曖昧にならないようにしっかりと言い分ける発話を意識させたい。

(5) 年間指導計画における位置付け

1 学期では、一般動詞、**be** 動詞、疑問詞、名詞の複数形等を学んだ。2 学期は、指示代名詞 **this / that**、疑問詞 **Where** と場所を表す前置詞、そして今回、主格の人称代名詞 **he / she** が新出である。この後、一般動詞の三人称単数現在形を学び、目的格の人称代名詞 **him / her** へつながっていく。

1 学期自己紹介スピーチを行った。2 学期の最後には、それまでに学んだ知識を活かして、第三者の人物紹介のスピーチを行う予定である。

(6) 単元の指導計画と評価計画 (7 時間扱い)

	学習活動・学習内容	評価規準
第 1 時	教科書 PROGRAM 5 全体の導入 Section 1 : This is.... / Is that...? / Yes, it is. / No, it isn't. の文法 (友達や身の回りの物を紹介したり、尋ねたり答えたりできるようにしよう。)	ア - ①、②    イ - ① ウ - ①
第 2 時	Section 1 : 教科書 p.51 本文の内容理解・音読	ア - ①、②    ウ - ② エ - ②
第 3 時	Section 2 : Where...? / It's.... の文法 (どこにあるのかを尋ねられるようにしよう。)	ア - ①、②    イ - ① ウ - ①
第 4 時	Section 2 : 教科書 p.53 本文の内容理解・音読	ア - ①、②    ウ - ② エ - ②
第 5 時	Section 3 : He is .... / She is .... の文法 (家族について話せるようにしよう。)	ア - ①、②    イ - ① ウ - ①
第 6 時	Section 3 : 教科書 p.55 本文の内容理解・音読	ア - ①、②    ウ - ② エ - ②
第 7 時 (本時)	Section 3 の復習 (post-reading 活動) 人物紹介を書いて発表 (ペア・グループ)	ア - ①、② イ - ①、②

(7) 研究主題との関わり (発信力を高めるための 4 技能の総合的な指導の工夫)

この単元では、「国際フードフェスティバル」や登場人物の家族紹介の会話文の読み取りだけでなく、そこで使われている表現を活用して「人物紹介スピーチとして表現すること」で、「学んだことを英語を通して発信する」ことへつなげる。

(8) 本時

ア 本時のねらい

- ① 言語活動や発表活動を通じて、**he / she** の定着を図る。
- ② 人物紹介の発表を積極的に行い、発信力を養う。



イ 本時の展開

指導過程	教師の指導	生徒の活動	指導の留意点 ◎ 評価規準 (方法) ● 教材・教具
1 Greeting 本時のねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 英語で挨拶をする。</li> <li>・ 本時のねらいについて生徒に伝える。(掲示)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一斉に英語で教師の挨拶に答える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本時のねらい(掲示) 「<b>he / she</b> を使って身近な人を紹介しよう」</li> </ul>
2 Warm-up BINGO GAME 5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 単語を読み上げる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 単語を聞き取り、ペアでの対戦をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● BINGO</li> </ul>
3 Review of PROGRAM 5-3 8分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前回の内容の理解を英問英答で確認する。</li> <li>・ Choral Reading</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教師の発話を集中して聞き、質問に答える。 <b>受信する</b></li> <li>・ 登場人物の気持ちが聞き手に伝わるように音読する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒の反応を見ながら、答えにくい様子が見られた時には同じ内容を答えやすいように言い換える。</li> </ul> <p style="text-align: right;">◎ア① (観察)</p>
4 Writing Task Introducing a person 10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教師によるデモンストラーションを行う。(ワークシートの紹介例を使用する。)</li> <li>・ ワークシートを使い、人物紹介の書き方を説明する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教師の英語を聞いて理解する。</li> <li>・ 自分で書く文を考える。 <b>考える</b></li> <li>・ 自分で文を書く。(ペアでの助け合いを行う。)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 活動が滞っている生徒を支援する。また、生徒が共通してつまづいている箇所を板書し、説明を加える。</li> </ul> <p>● ワークシート</p> <p style="text-align: right;">◎ア② (観察)</p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 机間指導を行う。</li> </ul>		
<p>5 Practice in pairs</p> <p>10分</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ワークシートを見ないで人物紹介を言えるように指示する。</li> <li>・ 机間指導を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ペアで発表し合う。 <b>発信する</b></li> <li>・ ワークシートを見ないで人物紹介を言えるようになるように練習する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ペアを支援する。</li> <li>・ 共通の誤りを指摘する。 ◎イ①②（観察）</li> <li>● ワークシート</li> </ul>
<p>6 Group Work</p> <p>5分</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 4人グループを作り、発表するように指示する。</li> <li>・ グループの中でベストスピーカー1人を推薦させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 4人グループで発表する。 <b>発信する</b></li> <li>・ 他の生徒の発表をよく聞き、班の中でベストスピーカーを決める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ グループを支援する。  ◎イ②（観察）</li> </ul>
<p>7 Presentation</p> <p>10分</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各グループのベストスピーカーに、学級全体にむけて発表させる。</li> <li>・ 1人のスピーカーの発表が終わるごとに、教師が学級全体にベストスピーカーの発表内容に関する英問英答を行い、内容の理解の程度を確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各グループのベストスピーカーは前へ出て、1人ずつ発表する。 <b>発信する</b></li> <li>・ 教師の英問に答える、人物紹介の内容を確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 発表者を支援する。</li> <li>・ 発表者の良かった点をほめる。  ◎ア①（観察）</li> </ul>
<p>8 Consolidation</p> <p>2分</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本時の he / she の使い方を再確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本時に学んだ内容を確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 簡潔にまとめる。</li> <li>・ 本時のねらい(掲示) 「he / she を使って身近な人を紹介しよう。」</li> </ul>
<p>9 Greeting</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 英語で挨拶する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 英語で教師の挨拶に答える。</li> </ul>	

- 受信する** ・教師のデモンストレーションによる人物紹介の内容を理解する。
- 考える** ・人物紹介の内容を生徒自ら考える。
- 発信する** ・自分の書いた人物紹介をペア、グループ内のメンバー、学級全体へ伝える。

### 【生徒の作品例】

- ・ This is Kazuma. He is my brother. He's a student at Kyuden Elementary School. He is fine.
- ・ This is Ryunosuke. He is my brother. He's a kindergarten student. He is cute.
- ・ This is Tanaka Masahiro. He is a professional baseball player. He has some world records. His nickname is Ma-kun.
- ・ This is Keisuke. He is a member of Southern All Stars. He's a musician. He is famous.
- ・ This is Date Mikio. He is a comedian. He is very funny. He is very famous.
- ・ This is Yuki. He is my brother. He plays in a marching band. He is cool.
- ・ This is my father. He is a business person. He likes sport fishing.
- ・ This is Rola. She is cute. She's from Tokyo. She is a model.
- ・ This is Kyoko. She is my mother. She is a cartoonist. She is kind.



※生徒が授業の中で書いた英文は英語としての誤りを指摘する、よりよい表現があれば提示するなどして添削し、後日返却した。

### (9) 授業を終えて ～成果と課題～

#### ア 成果

- ・教科書で学習した英語らしい発音方法や慣れ親しんだ文の形が人物紹介の発表や英作文をする際に役立つ様子が見て取れた。
- ・教師の指導として一斉指導・個人指導を、活動形態としてペア活動・グループ活動・学級全体に向けた発表を使い分けること、また ICT 機器を使用して生徒の興味・関心を喚起することで生徒は人物紹介の発表を積極的に行い、発信力を養うことにつながった。

#### イ 課題

- ・教科書本文の内容理解を、暗唱できるレベルまで高めていけば、その後のワークシートを使った英作文にさらにスムーズに移行できたのではないかな。
- ・人物紹介文を書き終えた後、個人で読む練習をしっかりと行った後にペアで発表する活動に移れば、ペアでの発表活動がさらに活発になったのではないかな。
- ・ベストスピーカーによる学級全体への発表時は、グループで座った座席から正面を向いた座席にした方がより集中して聞けたのではないかな。

#### 4 検証授業B

第3学年で、次に示す検証授業を行った。

##### (1) 使用教科書 *TOTAL ENGLISH Book 3* (学校図書)

単元 LESSON 4 “Speech—A Man’s Life in Bhutan”

##### (2) 単元の目標

- ア 現在分詞・過去分詞の後置修飾や<主語+tell, want など+目的語+to 不定詞>を用いて、相手に尋ねたり、適切に応答することができる。
- イ 現在分詞・過去分詞の後置修飾や<主語+tell, want など+目的語+to 不定詞>の文構造を理解する。
- ウ ブータンの地理と、西岡京治さんがブータンで行った活動を理解する。
- エ スピーチを読んでナナの主張を理解する。
- オ 本文の内容について感想を交えながら発表することを通して、自らの考えを相手に伝えるための「発信力」を育てる。

##### (3) 単元の評価規準

ア コミュニケーションへの関心・意欲・態度	イ 外国語表現の能力	ウ 外国語理解の能力	エ 言語や文化についての知識・理解
①ペアやグループ間で協力して積極的に言語活動に参加し、コミュニケーションを図ろうとしている。 ②間違ふことを恐れず、意欲的に英文を書こうとする。	①現在分詞・過去分詞の後置修飾を用いた文や<主語+tell, want など+目的語+to 不定詞>の文を用いて、正しく話したり、書いたりできる。 ②本文の場面や人物の気持ちに即して適切に音読することができる。 ③教科書の内容やブータンや西岡京治について得たことを英文にまとめたり、発表したりできる。	①現在分詞・過去分詞の後置修飾を用いた文や<主語+tell, want など+目的語+to 不定詞>の文の文を聞いたり読んだりして、その内容を理解できる。 ②本文の内容を正しく読み取ることができる。	①現在分詞・過去分詞の後置修飾の文<主語+tell, want など+目的語+to 不定詞>の文構造を理解できる。 ②ブータンの地理と、西岡京治がブータンで行った活動を理解する。

#### (4) 指導観

##### ア 単元観

本単元では、ブータンでの農業支援に当たった西岡京治さんについて、登場人物のナナが行ったスピーチが題材である。国際理解に貢献した日本人についてのスピーチを通して、国際協力の大切さを学ばせたい。また、本単元で学習したことを通して、スピーチの構成方法に習熟させ、スピーチ原稿を作る参考とさせたい。

言語材料としては現在分詞と過去分詞の後置修飾とく主語+tell, want など+目的語+to 不定詞>の文構造を扱う。特に分詞を用いる後置修飾については、文の中での修飾関係をしっかり理解しないと、文の正しい理解につながらない。また、次の課で、関係代名詞という生徒がつまづきやすい後置修飾を学習するため、準備としても本単元の学習は重要なポイントとなる。これまでの英語学習の中で、文の構造を十分に理解せず、単語の意味を漠然と組み合わせて英語を理解しようとしてきた生徒は、分詞の後置修飾の学習に行き詰まりを見せる可能性が高いと考え、なるべく多くの文のインプットを与え、基本的な文構造をしっかりと定着させた上で活動を行いたい。

##### イ 教材観

ワークシートを用いて文の構造を理解させながら、ペアワーク、パターンプラクティス等の練習を通しての定着を図るとともに、英語によるオーラルイントロダクションや、絵・写真などの視覚教材を用いて、題材についての興味・関心を全ての生徒から引き出す。

#### (5) 年間指導計画における位置付け

後置修飾の学習では、文の構造が複雑で意味が取れない生徒が見受けられる。本単元で学ぶ、分詞による後置修飾と次の単元で学ぶ関係代名詞による後置修飾は文構造が類似しているため、本単元の学習を通して、次に学ぶ関係代名詞の円滑な導入につなげる。

また、人物をテーマにしたスピーチ文の読み取りを通して、その人物を詳しく描写する際には、後置修飾のような複雑な表現が必要になることを理解させた上で、読み取りで身に付けた表現をスピーチを作る際に使おうとする意欲を育てる。

#### (6) 単元の指導計画と評価計画（8時間扱い）

	学習活動・学習内容	評価規準
第1時	現在分詞の後置修飾を用いた文の導入 Lesson4 全体の概要理解	ア-①、② ウ-① エ-②
第2時	現在分詞の後置修飾を用いた文の練習 教科書 p.54,55 の導入	ア-①、② イ-① ウ-① エ-①、②
第3時	教科書 p.54,55 の内容理解、音読、post-reading 活動	ア-② イ-②、③ ウ-② エ-②
第4時	過去分詞の後置修飾を用いた文の導入、練習 教科書 p.56,57 の導入	ア-① イ-① ウ-① エ-①

第5時	教科書 p.56,57 の内容理解、音読、post-reading 活動	ア - ② イ - ②、③ ウ - ②、③ エ - ②
第6時	<主語+tell, want など+目的語+to 不定詞>の文の導入、練習、教科書 p.58,59 の導入	ア - ① イ - ① ウ - ① エ - ①、②
第7時 (本時)	教科書 p.58,59 の内容理解、音読、post-reading 活動	ア - ①、② イ - ③ ウ - ② エ - ②
第8時	Lesson4 のまとめの言語活動「受信する→考える→発信する」 (ブータン人の立場になって、西岡さんの活動を発表しよう) 原稿作成	ア - ①、② イ - ③ ウ - ② エ - ②
第9時	Lesson4 のまとめの言語活動「受信する→考える→発信する」 (ブータン人の立場になって、西岡さんの活動を発表しよう) 発表	ア - ① イ - ③ エ - ②

(7) 研究主題との関わり（発信力を高めるための4技能の総合的な指導の工夫）

この単元の学習では、単に「国際理解に貢献した人」についてのスピーチの読み取りだけではなく、その人物について、「ブータン人の立場になって、西岡さんの活動を発表しよう」というテーマで国際支援を受けた国の人々の立場からまとめて発表することで、「学んだことを英語を通して発信する」ことへつなげたいと考えている。

なお、この発表活動は本研究で提案している単元のまとめとしての「受信する→考える→発信する」学習プロセスを意識した言語活動である。この「発信力」の育成を目指した活動を成功させるためには、単位時間内に行う一つ一つの学習活動において、意識的に4技能の総合的な指導工夫を行うことが大切である。さらに、「聞くこと」「読むこと」を通して得た知識等について、自らの体験や考えなどを交えて「話すこと」「書くこと」に結びつけることも必要である。教科書のセクションの学習においても常に「発信力」を高めることを意識して授業を展開したい。

(8) 本時

ア 本時のねらい

- ①教科書の内容を理解し、西岡京治さんの生き方を学ぶ。
- ②西岡京治さんから学んだことを簡単な英語に表して発表する。

イ 本時の展開

指導過程	教師の指導	生徒の活動	指導の留意点 ◎評価規準 (方法) ●教材・教具
1 Greeting 1分	<ul style="list-style-type: none"> <li>英語で挨拶する。</li> <li>本単元のCAN-DOリストの目標である「西岡京治さんの活動をブータンの人々の立場に立って発表する」ことを踏まえ本時の学習内容を確認させる。</li> </ul>		
2 Presentation (Lesson4B post-reading) 4分	<ul style="list-style-type: none"> <li>発表のペアを指名するとともに、発表の聞き方も確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>前課の内容を発展させたスキットを1、2ペアが発表する。</li> <li>他の生徒はスキットの内容を確認する。</li> </ul>	◎イ③(観察)
<p><b>実際に授業で発表したスキット</b> *BF=Bhutanese farmer N=Mr.Nishioka</p> <p>BF: Mr.Nishioka, please help me. We are very hungry. We want more food.</p> <p>N: OK, I have good seed brought from Japan. If you plant these seeds, you will get more harvests. So you can eat more delicious food.</p> <p>BF: Really? It's a good idea. If we can eat more, we will be very happy.</p> <p>N: Then let's plant these seeds like this. (種を植えるジェスチャー)</p> <p>BF: Where are my vegetables? I want to eat vegetables soon.</p> <p>N: Please wait for three months.</p> <p>BF: No, I can't wait. I'm very hungry NOW!</p>			
3 Review of Lesson4C 5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒にブータンや西岡京治さんや彼の活動に関する質問を英語でし、背景知識を確認する。</li> <li>ワークシートの Warm-Up を読み直し、西岡さんが広めた稲作の技術についての理解を深めさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教師の質問に英語で答え、これまでに学んだブータンや西岡京治さんの活動を振り返る。 <b>受信する</b></li> <li>ワークシートの Warm-Up を読み直し、西岡さんが広めた稲作方法への理解をさらに深める。 <b>受信する</b></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒から引き出すように心掛ける。</li> <li>●ピクチャーカード</li> <li>●ワークシート</li> <li>・生徒の反応を見ながら補足説明を加える。</li> </ul>
4 Vocabulary Input 3分	<ul style="list-style-type: none"> <li>ワークシートの新出単語の音読練習をさせる。</li> <li>ペア同士で新出単語の意味を確認させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ワークシートの新出単語の音読練習をする。</li> <li>ペア同士で意味を確認しあう。</li> </ul>	●ワークシート ◎エ③(観察)
5 Reading Aloud 7分	<ol style="list-style-type: none"> <li>CD Listening</li> <li>Choral reading</li> <li>Buzz reading</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>英語らしく音読できるように発音を再確認する。</li> <li>イントネーション、リズム、ポーズなどに留意して練習する。</li> <li>暗唱することを念頭に、個人で練習する。</li> </ul>	●CD player  ◎イ②(観察)

6 While-reading  10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>本文をペアで英語から日本語に直させ、意味を確認させる。</li> <li>ワークシートの T-F quiz に取り組ませ、本文の理解をさらに深めさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ペアで協力して、本文を英語から日本語に直して、本文の内容をつかむ。</li> <li>ワークシートの T-F quiz に取り組ませ、本文についての理解をさらに深める。 <b>考える</b></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>机間指導をする。</li> <li>●ワークシート ◎ウ②(観察)</li> </ul>
7 Post-reading  18分	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分がブータン国王になったら、ダショーの称号授与式でどんな祝辞を言うかを考えさせて、英文で書かせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>西岡さんの一生を振り返り、印象深いエピソードを踏まえて、間違いを恐れずに伝えたいことを英文で表す。 <b>考える</b> ・ <b>発信する</b></li> <li>途中、未完成であってもブータン国王のスピーチをペアで読み合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ワークシート</li> <li>・モデルとなる英文を提示する。</li> <li>・活動が滞っている生徒には個別指導する。</li> <li>・完成している生徒に発表させる。 ◎ア②③イ③ (観察)</li> </ul>
<p><b>生徒のスピーチ作品例</b></p> <p>You changed our old way of farming. Most of our people were not interested. I thought you would give up. But you didn't give up our people. You decided to grow vegetables first. People began to trust you because you grew vegetables very well. People asked you to help them more. They say, "Nishioka's work has changed our lives and will help us for a long time." I think the important thing is to give others both our time and skills. Thank you very much.</p>			
8 Consolidation  2分	<ul style="list-style-type: none"> <li>ナナのスピーチの結論を板書して、もう一度確認する。</li> <li>・宿題(発表)の指示をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ナナの主張を改めて理解し、共有する。</li> </ul>	◎エ②(観察)
9 Greeting	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語で挨拶する。</li> </ul>		

**受信する** 西岡さんが広めた稲作方法への理解をさらに深め、彼の活動を振り返る。

**考える** 西岡さんの一生を振り返り、伝えたいことを考える。

**発信する** ブータン国王の立場で、西岡さんへの感謝の気持ちを英文に表して発表する。

(9) 授業を終えて ～成果と課題～

本時の授業では、単元で学習した内容をスキットやスピーチの形式で発表することを通して、「発信力」の育成を目指してきた。第8時では、少人数学級に分かれ、生徒全員がブ

一タン国王の立場になってのスピーチを行うことができた。「受信する」→「考える」→「発信する」という学習プロセスを意識して行う言語活動が、英語力の育成に有効な手段であることが実証できたと考える。

また、協議会においては、学んだことを英語を通して発信するためには、1年時から意識的に4技能を組み合わせた指導を繰り返し行うことの重要性を改めて認識した。

## VII 研究の成果と課題

### 1 発信力を高める活動の成果と課題

主題設定の理由で取り上げた「国際共通語としての英語力向上のための5つの提言と具体的施策」にある「スピーチ、プレゼンテーション、ディベート、ディスカッションなどを取り入れることにより、生徒の言語活動を中心とした授業へと改善を図る必要がある」を受けて、今までは教科書教材の内容理解に指導の重きを置くことが多かった授業を、教科書教材を用いて4技能を組み合わせた活動を取り入れた統合的な授業へ変化させる方法について話し合いを重ねた。教科書の内容を理解した上で、教科書の本文やそこで学習した文構造を活用して、自分の体験や思い・考えを相手に伝える活動に着目し、各教科書の単元終了後に取り組むことのできる活動を検討した。それが各教科書の「発信力を高める言語活動例」である。

活動例を検討するに当たり、発信力を高める効果的な言語活動について繰り返し話し合いをした。読んだり、聞いたりして受容した知識などを、自分の体験や思い・考えなどと結び付けながら活用して相手に発信するためには、文構造だけでなく、教科書教材の内容も理解した上で取り組むことのできる活動が効果的であることを検証して、現行の全ての教科書の全ての単元にどのような活動が妥当であるか検討し、提案するに至った。

こうした活動を取り入れることで、教科書教材の内容理解に始まり（「受信する」）、教科書教材から得た情報を、自分の体験や思い・考えを表現するために選択して整理し（「考える」）、文章で表したり、口頭発表したりする（「発信する」）ことへとつなげることができる。検証授業では、教科書の内容を理解した上での活動のため、生徒たちの取組はスムーズで、教科書の表現を用いながら意欲的に自分の体験や思い・考えを発信しようとする姿が見られた。また、こうした活動を各単元のまとめとして行うことにより到達目標を明らかにすることができるため、生徒の発信することへの意欲を高めること、4技能をバランスよく総合的に指導するという教師の意識を高めることにもつながることが確認できた。

しかし、こうした活動は継続的に行わなければ効果はあがらないことから、ある単元で単発的に取り入れても十分な成果をあげることはできないであろう。本報告書の7ページから12ページに挙げたような言語活動を計画的、継続的に取り入れることで、生徒たちが多くの情報を受信し、得た情報から表現する内容を考え、自ら表現しようとする意欲を高め、発信力を向上させることにつながっていくと考えられる。3年間を見通して、どのような力を付けるために、どんな活動が必要なのかを教師がしっかりと把握し、計画的に4技能をバランスよく総合的に指導していく工夫が求められる。そのためにも、発信力を高める活動は、各学年や単元の目標を踏まえたものでなければならない。最終到達目標に至るまでに段階を経た効果的な指導を工夫していくためには、CAN-DOリストが必要であることを明らかにできたと考える。

## 2 CAN-DOリストの成果

### (1) 生徒が身に付ける能力の明確化による生徒の指導と評価の改善

検証授業においては、「表現の能力」と「理解の能力」について、生徒が身に付ける能力を明確化して授業に臨むことで、教師が能力を意識した指導と評価を行うようになり、授業改善に生かすことができた。

### (2) 4技能をバランスよく育成し、自らの考えを適切に伝える力を養う工夫

CAN-DOリストで4技能別の生徒の学習到達目標を設定することで、授業の中で4技能をバランスよく総合的に育成することを教師が意識し、発信力を養う指導の工夫ができたことから、コミュニケーション能力の育成につながった。

### (3) 到達目標の共有による主体的に学習する態度・姿勢の育成

検証授業では、「CAN-DOリスト」を学習者に示し、教師と生徒がその授業のできるようになること(到達目標)を共有することで、言語活動の目標を明らかにすることができた。従来の授業に比べ、より生徒が主体的に学習に取り組もうとする姿勢が見られ、発信力を高めることにつながった。また、授業の終わりに生徒に目標を再確認させることにより、生徒が自らの学習内容を振り返る機会とした。

## 3 CAN-DOリストについての課題

### (1) 生徒の学習状況や実態把握に関する課題

CAN-DOリストの作成に当たっては、卒業時の学習到達目標の設定と、それに対応した学年ごとの学習到達目標の設定のために、研究員の所属校において調査を実施し、生徒の学習状況や英語でできると感じていることの実態の把握を試みた。リストを作成するに当たり、CEFR-Jなどを参考にして、具体的な能力記述文による「調査」を作成した。調査結果から学年ごとの英語でできると感じていることの実態を読み取れないという課題も明らかになった。英語能力到達度指標(CEFR)は、元来ヨーロッパの多言語国家において英語教育に使用されていたものであり、日本の教育環境には馴染みの薄い項目も含まれている。例えば調査結果の「I聞くこと」の「身近な話題に関するラジオの短いニュースなどを聞いて、要点を理解することができる」という項目では半数が「できる」と感じていない。生徒たちの多くがラジオのニュースを英語で聞く機会が実生活の中でほとんどないためであろう。一方、「天気予報」「買い物」「外食」などの言語使用場面はどの教科書でも取り扱っているため、多くの生徒が聞いて理解できると感じている。生徒が「できる」と感じるためには、使用教科書の内容と関連させ、生徒の外国語使用環境を踏まえながらCAN-DOリストを作成する必要がある。

### (2) 学習到達目標の更新に関する課題

今回の調査は、研究員の所属する11校で実施し、1年生253名、2年生820名、3年生549名、合計1,622名分のデータを回収、分析したものである。各学校でリストを作る際には、生徒の学習状況を見極め、リストの作成がゴールとせず、卒業時及び学年ごとの学習到達目標が適切であったかどうかを毎年見直すなど、CAN-DOリストを継続的に改訂する必要があると考えられる。

## 平成25年度 教育研究員名簿

### 中学校・外国語

地区	学校名	職名	氏名
千代田区	九段中等教育学校	教諭	高杉 達也
文京区	第十中学校	主任教諭	相沢 隆二
目黒区	東山中学校	教諭	橋本 好美
世田谷区	烏山中学校	主任教諭	大屋 剛
中野区	第七中学校	主任教諭	川合 麻里
練馬区	北町中学校	教諭	黒澤 敬
葛飾区	桜道中学校	主任教諭	○前田 宏美
武蔵野市	第三中学校	主幹教諭	伊藤 夕香
町田市	忠生中学校	教諭	松井 優延
東大和市	第三中学校	主任教諭	山崎 早織
あきる野市	秋多中学校	主任教諭	◎宮崎 太樹

◎ 世話人      ○ 副世話人

〔担当〕      東京都教育庁指導部義務教育特別支援教育指導課  
指導主事      窪田 香

平成25年度  
教育研究員研究報告書

中学校・外国語

東京都教育委員会印刷物登録

〔平成25年度第193号〕

平成26年 3月

編集・発行 東京都教育庁指導部指導企画課  
所在地 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号  
電話番号 (03) 5320-6836  
印刷会社 昭和商事株式会社